

参加者 21名

第五十八回歴史探訪「本郷ふじやま公園古民家歴史部会」大山道の歴史を語る 原本作成

「II」5月12日(木) 世田谷代官屋敷跡・郷土資料館・豪徳寺・松陰神社

集合；田園都市線「三軒茶屋駅」中央改札9；50分厳守同時出発）注；西改札有り

行程；田園都市線「三軒茶屋駅」→世田谷線三軒茶屋駅→上町駅→世田谷区立郷土資料館・田

谷代官屋敷跡・世田谷ぼろ市→勝光院→世田谷八幡宮→豪徳寺→世田谷城公園→勝国寺
世田谷線 電車 10:00 → 上町駅 10:07
→ 松陰神社 → 「松陰神社前駅」。

昼食場所；松陰神社参道商店街「大丸鮮魚」1050円・TEL03-3419-7800。

1・世田谷区立郷土資料館

(世田谷通史展示・大場家と代官屋敷・特別展示室・屋外に10点程石造物展示・2千数百点

古文書、内1366点の大場家文書は都有形古文書指定・昭和39年開館昭和62年増改築入場無

料)

○世田谷代官屋敷跡

都史跡・大場家住宅主屋、表門国重文・母屋長押、ナギシに檜、薙刀、捕物用三つ道具・屋敷庭
に罪人取調べ白州があったと推定)彦根藩主井伊直孝は、1633年(寛永10)、関東に5万石の加
増(佐野領と世田谷領含)を受け、世田谷領15ヶ村に井伊家の代官として大場氏が任命されて。
初代は大場吉隆市之丞と推定され、以後236年間明治に至るまで大場氏一族がその職を相続した。
代官屋敷表門(長家門・茅葺)・母屋(面積191.15㎡=約58坪・寄棟造・茅葺)は国重文指定、
構造手法から17世紀後半から18世紀初期と推定。

○大吉寺

浄土宗・本尊阿弥陀如来・都旧伊勢貞丈墓跡、江戸時代武家故実学者・中世、吉良氏祈願所と

し建立)24 35

10:00 ~

2・勝光院(曹洞宗・勝光院・本尊虚空蔵菩薩・書院茅葺屋根文政6年1823、梵鐘区有形・吉良氏墓
所区史跡)

1335年(建武2)世田谷城主吉良治家の開基と伝う。1546年(天文15))吉良頼康(法名勝光
院)が中興したと言う。

10:47 ~ 10:55

3・世田谷八幡宮(祭神仲哀天皇、神功皇后、応神天皇・例祭毎月1日・毎年秋に奉納相撲)

源義家が後三年の役戦勝を記念して建てたと伝う。1546年(天文15)吉良頼康再建から吉良氏の氏神となった。1546年(文化10)建造の本殿は、1964年(昭和39))改築の社殿内に納められている。

11:08 ~ 12:28
4・豪徳寺(曹洞宗高輪泉岳寺末・大谿山洞春院・本尊釈迦牟尼仏・阿弥陀、釈迦、弥勒の三世仏木造坐像仏殿須弥壇^ニ安置、江戸期仏工祥雲作・仏殿の西に井伊直孝にちなむ伝えをもつ縁起物の招き猫が祀られている)

室町時代世田谷城主吉良政忠が、1480年(文明12)伯母(弘徳院コトクイン)の病疫に際し菩提のため建立したのが前身と伝う。開山は馬堂昌誉(マドウショウヨ)。臨済宗であったが1584年(天正12)曹洞宗に改宗。1633年(寛永10)彦根藩主井伊家の菩提寺となり、藩主直孝が葬られ、久昌院殿豪徳天英大居士の法名にもとづき豪徳寺と称した。四脚門(表門・昭和初期再建)を入ると梵鐘鐘楼1679年(延宝5銘・区有形文化財)、正面に仏殿(黄檗^{ワカ}様式建築、裳階^{モウカイ}付き一重、瓦棒銅板葺入母屋造、区有形文化財)1677年推定(元禄3)建立。裳階(軒下庇^{ノド}様差掛^{サカ}かり)屋根に「元禄3年(1690)」銘の「式世仏、サゼバツ」の扁額。

境内に井伊直弼の墓(ナカ・都史跡・1860年=万延元桜門外の変暗殺・没3月3日埋葬4月10日、46歳)そばに家臣遠城謙道(生涯直弼墓守)の墓及び桜田殉難8士之碑(1886建立明治19)・井伊家墓地・明治、大正期の書家日下部鳴鶴(クサベメカ・本名東作)・劇作家中村吉蔵・フランス文学者吉江喬松、奇人葦原将軍(俗称)などの墓。豪徳寺木造仏殿像5軀市文化財(胎内銘札延宝5年1677井伊直孝娘掃雲院が、父の菩提弔う「洛陽仏工祥雲」に造らせた・仏殿安置順;達磨大師坐像・阿弥陀如来坐像・釈迦如来坐像・弥勒菩薩坐像^{大権修利菩薩倚像}、祥雲は黄檗宗の鉄眼に弟子、現目黒五百羅漢彫刻した松雲元慶(1648~1710)。仏殿延宝4年(1677)完成市文化財。

11:30 ~ 33
5・世田谷城趾公園(都旧跡・世田谷吉良氏8代二百数十年の館跡・忠臣蔵悪吉良は三河国時代分かれた西条吉良氏)

足利氏重臣吉良治家氏(関東吉良は西条に対して東条吉良氏)の居城(14世紀)。三河国吉庄から上野国、世田谷に入った。世田谷に初めて城を構えたのは、吉良治家と言い、応永の頃(1394~1428)、関東公方足利氏を補佐するため此处に居を構えた。戦国期北条氏勢力が相模統一に乗

り出すと、上杉氏から一早く北条旗下に降った。その時城主吉良成高は、息子頼家と氏綱の娘崎姫との婚姻を結んで、北条一門となった。南多摩、世田谷に君臨。世田谷区、大田区、川崎市に一族を分知、横浜に蒔田城を築いて、新領とするなど、南武蔵屈指の勢力にある。吉良氏ゆかりの都内諸城は、奥沢城（久品仏浄真寺城砦、重臣大平出羽守居城）、三宿城（三宿多聞小学校辺り台地、支砦）、大平出羽砦（奥沢小学校の地、大平氏関係砦）、等々力城（上野毛大塚山辺り支砦）、烏山砦（烏山神社、吉良氏菩提寺泉沢寺場所、のち川崎に移る）。烏山用水・北沢用水に囲まれ、南・北・西方に土塁を巡らした平山城であった。1590年（天正18）後北条滅亡の祭廃城となった。

神 6・勝国寺（真言宗豊山派・青竜山・本尊不動明王、薬師如来及び脇侍日光菩薩立像区有・12神將安置薬師堂・寺宝木造薬師如来立像室町期作薬師堂安置胎内天正20年1592備前阿快翁彩色修理文書郷土資料館寄託区文化財・境内に長州藩士吉田松陰親友長州萩の藩士儒者、土屋蕭海^{ショウカイ}の墓）

開基は世田谷5代に城主吉良政忠で天文23年(1554)12石を寄進した。吉良滅亡後、天正19年(1591)徳川家康から12石の朱印受けた。

神 7・松陰神社（祭神贈正4位吉田寅次郎、藤原矩方^{リカタ}命・例祭4月27日、10月27日・神紋木瓜に逆まんじ・社宝吉田松陰、頼三樹三郎、小林民部、来原良蔵ら烈士墓碑文久3年門下生高杉晋作、伊藤博文等が小塚原から改葬・吉田松陰の墓1859年安政6伝馬町獄舎刑死小塚原葬られ昭和初め社殿大修理・昭和11年建設模造松下村塾^{ショウカリジユク}・参道西側に幕末志士・維新の功臣で木戸孝允と共に長州の2巨頭と称され、1871年暗殺された広沢真臣^{マコト}の墓1833～71都旧跡・神道碑・徳川氏奉納石灯籠と水盤蛤御門の変1864松陰墓所幕府が破壊明治元年修復徳川氏謝罪）

1863年（文久3）高杉晋作ら門弟が遺体を毛利家抱屋敷の若林に移葬した。墓碑「吉田寅次郎藤原矩方墓」と刻、向かって右に小林民部良典（ヨシカ）、頼三樹三郎（ヨリミ・1859刑死）、福原乙之進（フナノ）左側に来原（クハラ）良蔵・同夫人、綿貫治良助（ジロシカ）、中谷正亮（ショウカ）、野村靖・同夫人の墓など師弟の墓が並んでいる。門弟等が1882年（明治15）本神社を墓の東側に建立し、1908年（明治41）門弟伊藤博文・山県有朋・桂太郎・乃木希典らが松陰50周年祭を営み、

石鳥居と石灯籠 26 基を建立した。

①吉田松陰（1830 ～ 59）；

幕末の長州藩士杉百合之助次男。兵学通じ、江戸にて佐久間正山に法学を学ぶ、海外事情に意を用い、1854 年（安政 1）米艦隊渡来の際下田で密行を企て投獄。のち松下村塾で子弟を薫陶・^{クントウ}感化、安政の大獄に座し、江戸で刑死。

②松下村塾；

吉田松陰が叔父玉木文之進の後を受けて継いで 1856 年（安政 3）から主宰（シュサイ）した私塾。1858 年藩許を得た。山口県萩市松本に遺跡ある。高杉晋作・久坂玄瑞・前原一誠・伊藤博文・品川弥二郎等輩出。

③木戸孝允（カドシ・1833 ～ 77）；

政治家。長州藩士。初め桂小五郎。のち木戸寛治・準一郎と改名。松菊と号。藩の指導者となり薩摩藩とともに幕府を打倒。維新後は参議など要職を歴任、政府内の進歩派の中心として、版籍奉還・廃藩置県に尽力。岩倉使節団副使。きどこういん。

④高杉晋作（1839 ～ 67）；

長州藩士。名は春風、字は暢夫（チャウフ）、号は東行（トウギョウ）変名、谷梅之助。久坂玄瑞とともに松下村塾の双壁。江戸に遊学、藩校明倫館都講（藩校塾頭）。藩命で上海を視察。この頃より攘夷論の急先鋒。帰藩後、奇兵隊組織。英・仏・米・蘭の 4 国艦隊と下関に戦って敗れ、筑前に亡命。のち归来し、俗論党を破って藩論を倒幕に統一。1866 年（慶応 2）長州再征の幕府軍を潰敗（カイヘイ）させた。

⑤広沢真臣（ササキ・1833 ～ 71）；

維新期の政治家。通称、兵助。長州藩士。木戸孝允とともに長州藩を指導し、幕府を倒す。維新後、参与・民部大輔（タイフ・次官）・参議など歴任するが暗殺。

⑥伊藤博文（1841 ～ 1909・元老・公爵）；

明治の政治家。初名は利助、のち俊輔。号、春敏。周防出身（スウ・山口県東部）松下村塾に学ぶ。討幕運動に参加。維新後、藩閥政権内で力を伸ばし、憲法制定の中心となる。首相・枢密院（スウミツイン・君主最高機関）議長・貴族院議長（何れも初代）歴任、4 度組織し、日露戦争などに

あたる。政友会を創設。1905 年（明治 38）韓国統監。ハルビンで朝鮮の独立運動家安重根（アンジュン・死刑）に暗殺。

⑦山県有朋(1838 ～ 1922・元老・)；

軍人・政治家。前名、小輔・狂介。長州藩士。陸軍大将・元帥。公爵。松下村塾に学び、奇兵隊軍監。日清戦争に第一軍司令官、日露戦争には参謀総長。のち枢密院（クミツイン・君主最高諮問機関）議長。軍・官界に巨大な派閥を作り、政界に絶大な権力を振るう。

○⑧桂太郎（カツタロウ・1848 ～ 1913・公爵）；

軍人・政治家。陸軍大将。長州藩士。山県有朋下で軍制改革を推進、陸相。3 度首相、日英同盟締結・日露戦争・韓国合併条約締結などに当たる。第一次憲政擁護運動によって下野後立憲同志会組織。

⑨乃木希典（ノキ ヒロノリ・1849 ～ 1912）；

軍人。陸軍大将。長州藩士。日露戦争に第 3 軍司令官として旅順を攻略。後に学習院長。明治天皇の大喪当日、自邸で妻静子とともに殉死。

⑩前原一誠（マゼイ・1834 ～ 76）；

維新期の政治家。前名、佐世八十郎（ヤジロウ）。長州藩士。吉田松陰に学び、尊皇攘夷運動に加わり維新後は参議・兵部大輔を歴任した。新政府と意見合わず下野し、1876 年（明治 9）はぎの乱を起こし斬罪。

⑪久坂玄瑞（ゲンズイ・1840 ～ 64）；

長州藩士。字は実甫。号、江月斎。吉田松陰の娘婿。兵学を松陰に、洋学を藩校に学ぶ。尊皇攘夷を唱え、1864 年（元治 1）兵を率し京都に入り、蛤御門の変に会津・薩摩等の兵と戦い自殺。

⑫安政の大獄；

安政 5 年から翌年にかけて大老井伊直弼が尊攘運動派等にくだした弾圧事件。井伊が勅許を得ない仮条約に調印し、又家茂を将軍に迎えたことに反対した公卿・諸名を罰し、梅田雲浜・吉田松陰・頼三樹三郎・橋本左内ら多数の志士を投獄・処罰。

⑬梅田雲浜（ウメダウンビン・1815 ～ 59）；

名は定明。通称源治郎。元若狭小浜藩士。崎門学派の山口菅山に学ぶ。藩政批判、士籍（士族

族籍) 削られる。尊皇攘夷を唱え、ロシヤ襲撃を企て、又幕閣改造など計る。安政の大獄に座し、江戸獄舎で病死。

8・名残常盤塚 (名残常盤記カトリック=さぎ草物語) ;

世田ヶ谷城主吉良頼康側室、常盤を主人公とした歴史小説文。「飼っていた鷺が縁結びとなって頼康のもとへ側室として嫁した常盤姫が、嫉妬深い他の側室ら 13 人の陰謀によって罷業の死を遂げる」物語の中の人物は架空人物に過ぎないが登場する人物、寺社の多くが実在するため、真実みを帯びて語り継がれ、伝説にまつわる名の名所旧跡が現る程人気を博した。

9・常在寺 (名残常盤記主人公、常盤姫を開基とする。境内に物語りでの念持仏を投げ入れた井戸ある)

10・実相院 (曹洞宗・鶴松山・本尊薬師如来・寺宝涅槃像)

天正元年 (1573) 吉良 7 代左兵衛督従 4 位下源氏朝の創立で天永琳達の開山。吉良家は八幡太郎義家の子孫で 18 万石の大名だが天正 18 年秀吉の関東征伐で滅亡、後北条氏滅亡後、下総 (千葉) に逃れた吉良氏朝は、後世田ヶ谷に戻り、此の寺に隠居した。徳川幕府より朱印地として実相院領本村、禄高 10 石 2 斗 2 升など賜る。境内に氏朝夫妻の塚。

第五十八回行程案内図

